

水へのこだわり

清流通信の読者のみなさん、こんにちは。

今回は、大野見村の「久万秋の湧水(くまあきのわきみず)」についてご紹介します。

「久万秋の湧水」は、土佐の名水四十選のひとつ。県道19号線沿い、四万十川源流域・大野見村の久万秋地区から湧き出ています。この水は、久万秋滝山の樹木から滴る水が寄り合って硬砂岩の割れ目から湧き出したもので、大雨が降っても濁ることはなく、また、湯水時にも濁ることがないという天然ろ過された湧水です。

湧水は、天然ミネラルを豊富に含んだ軟水。そのまま飲んでも美味しく、お米を炊いたり、コーヒーを沸かす時に使うと水道水とは比べものにならないと評判です。なかには、お風呂や洗濯時にも使用している方もいるとのこと。今でも、近隣市町村からわざわざ汲みにやってくる方の姿が多く見られます。湧水は、訪れる人たちのノドを潤すばかりでなく、地域住民の生活にも大きな関わりを持ち続けているのです。

この天然水の旨味を、そのままペットボトルに詰めて商品化したのが「四万十の水紀行」。久万秋の湧水から数十mの所にある「四万十の村株式会社」が、平成3年から製造を手掛け、今では大野見村の特産品として各地で販売されています。村からは、“おらが村の会社”として大きな期待を寄せられています。四万十の村株式会社(TEL0889-57-2309)

「久万秋の湧水」のような水を育み続けるためには、まず、土壌の流出を抑制しなければなりません。それにはまず、ミネラルを供給できる豊かな土壌を生み出す森林の保全・育成に努める必要があります。また、土壌の発達に適した植生を維持・復元することも重要。水の流出経路である森林の土壌を保全・復元し続け、水の浄化機能を維持・向上させなければなりません。

水にこだわる大野見村の合言葉は、「上流をきれいにしなくてはならない」。四万十川の美しい流れを守るため、森林の適正な管理に取り組んでいます。→大野見村のホームページ(<http://www2.net-kochi.gr.jp/~onomi/>)



四万十の村株式会社 岡村謙介さん



Topics

「四万十ありのまま写真展」

ありのままの四万十川の姿。美しい面ばかりがピックアップされがちですが、それだけではないのが現実です。地域住民の方々をはじめ、多くの人々が流域について見直すべきかけとなる作品を募集しています。

- 締め切り:平成14年10月15日(火)※当日消印有効
- 写真展:平成14年12月~15年3月(予定)
- 主催・応募先:(財)四万十川財団(TEL0880-29-0200)

「第6回漂流物拾った写真展」

海岸にある漂流物を拾って帰るのもいいけど、写真に撮って帰ってみては?ただいま、作品募集中!

- 締め切り:平成14年10月1日(火)※郵送必着
- 写真展:平成14年10月22日(火)~10月31日(木)
- 主催・応募先:大方町砂浜美術館事務局
(TEL0880-43-4915)